

【第6回アフリカ開発サイドイベント】

西アフリカ・平和とレジリエンスの課題：開発アクターへの挑戦

国際協力機構（JICA）は、8月26日、安全保障研究所ダカール事務所（ISSダカール）との共催で、ケニアのナイロビ市内の Sarova Panafric Hotel にて、「西アフリカ・平和とレジリエンスの課題：開発アクターへの挑戦」をテーマにセミナーを開催しました。

西アフリカ地域では暴力的過激主義の問題が進行し、マリやその隣国でこれらの脅威が顕在化しています。この現象の解決のため治安分野への対応が進められていますが、それだけでは不十分です。本サイドイベントは、同地域の治安課題に対し、どのような開発介入が取りうるのかを考えることを目的として開催しました。

富吉賢一 JICA 理事の開会挨拶では、2013年に開催された TICAD V から JICA は平和と安定への支援を続けてきたことが述べられ、加えて本イベントで得られる知見は JICA の新しい協力の検討に寄与するものであると、本イベントの重要性が強調されました。

JICA と ISS ダカールが行った調査では、若者の過激化は、経済や宗教、イデオロギーなど単一要因によるものではないことが示されました。本調査結果はマリの過激派グループに属していた 60 余名の若者へ行ったヒアリング結果に基づいています。

本調査において、自身や家族、地域等の保護が主要要因の一つであり、多くの場合複数の要因が過激派グループへの参加の決定要因となることが判明しています。単一要因を追求するのではなく、若者の過激化の背景にある事象を十分に分析し、それぞれのコンテキストに合わせた対応策を検討することが重要です。

暴力的過激主義への対応は、治安分野強化の必要性を確認するとともに、それだけでは解決されず、複合的かつ複層的な課題への対応に、国家や開発アクター、関係ステークホルダーによる開発アプローチが、中心的役割を果たしうることを確認しました。

有効な開発手法として、制度・組織改革や国家再建プロセス、地方分権化や行政官の能力向上を通じた地方行政強化などが挙げられました。

セミナーでは、JICA コートジボワール事務所 飯村学所長をモデレーターに、登壇者に、マリのママドゥ・ナモリ・トラオレ元公務員・国家改革大臣、日本外務省国際司法協力

担当・赤根智子大使（最高検察庁検事）、ニジェール大統領府ウスマン・ムッサ教育技術顧問、コートジボワール内務・治安省ラファエル・バラ・ニャト地方分権化・地方開発局長、およびセネガル・日本職業訓練センター・ババカール・セック校長、ISS ダカール事務所ロリ・アン・テルー・ベノニ所長、同ウィリアム・アサンボ主席研究員、宮本みち子 マリ共和国外務・国際協力・アフリカ統合省 JICA 専門家を迎え、発表及び討論が進められました。

■本イベントの登壇者

【パネリスト】

- ・ マリ共和国 ママドゥ・ナモリ・トラオレ公務員・国家改革省元大臣
- ・ 日本外務省国際司法協力担当・赤根智子大使（最高検察庁検事）
- ・ ニジェール共和国大統領府ウスマン・ムッサ教育技術顧問
- ・ コートジボワール共和国内務・治安省ニャト・ラファエル・バラ地方分権化・地方開発局長
- ・ セネガル共和国セネガル・日本職業訓練センター ババカール・セック校長
- ・ ロリ・アン・テルー・ベノニ ISS ダカール事務所長
- ・ ウィリアム・アサンボ ISS 主席研究員
- ・ 宮本みち子 マリ共和国外務・国際協力・アフリカ統合省 JICA 専門家

【モデレーター】

- ・ 飯村学 JICA コートジボワール事務所長

【開会挨拶】

- ・ 富吉賢一 JICA 理事



右から、ニジェール共和国大統領府ウスマン・ムッサ教育技術顧問、マリ共和国 ママドゥ・ナモリ・トラオレ公務員・国家改革省元大臣、コートジボワール共和国内務・治安省ニヤト・ラファエル・バラ地方分権化・地方開発局長、セネガル共和国セネガル・日本職業訓練センター ババカール・セック校長